

9月24日から30日は「結核予防週間」

問合先／健康課(健康福祉会館内) ☎42-8723
fax42-7521 kenko@city.kasai.lg.jp

結核は今でも1日に43人の新しい患者が発生し、6人が命を落としている、日本の重大な感染症です。令和2年に北播磨地域では29人が新たに結核を発症しています。年に一度は健康診断(胸部X線検査)を受け、気になる時は早めに受診しましょう。

9月9日は「救急の日」

問合先／北はりま消防組合・
加西消防署救急係 ☎42-0119

救急業務や救急医療への理解を深めていただくために、毎年9月9日を「救急の日」とし、この日を含む1週間(今年は9月6～12日)を「救急医療週間」と定め、全国でさまざまな取り組みが実施されます。



加西消防署管内の実施事業

●優良救急隊員表彰

北はりま消防組合消防長表彰 9月 9日(水)

市医師会長・加西消防署長表彰 9月 9日(水)

●普通救命講習会(※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりました)

●広報活動 市内巡回、広報誌、ポスターなど

普通救命講習会(本年度中止)

「命のボタンをつなぐ第1走者になろう」

加西消防署では、毎月第3日曜日(9:00～12:00)に心肺蘇生法やAEDの取り扱い方法などを学ぶ「ハートtoハート講習会」を開催していましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止しています。講習会等の再開につきましては、北はりま消防組合のホームページまたは加西消防署救急係までお問い合わせください。

AED(自動体外式除細動器)をお貸します

加西消防署は2台のAEDを貸し出しています。イベント会場にAEDを配置して、参加者や来場者の安全のため、ご利用ください。貸し出しには、応急手当普及員または普通救命講習修了者が1人以上必要です。

救急車の正しい利用にご協力を

事故や災難に遭うと、慌ててしまいますが、救急車を呼ぶ前に「本当に必要かどうか」考えてください。軽い病気やケガ、タクシー代わりの要請で救急車が出動中に、一分一秒を争う重症患者が発生した場合、救急車の到着時間が遅れ、悲惨な結果になることも考えられます。救急車の正しい利用に、ご理解とご協力をお願いします。

事故原因を知って、高齢者の事故を予防しましょう！

1位 転倒(段差、玄関、廊下等)

- ・段差につまずかないよう気をつけましょう
- ・転倒を防ぐために整理整頓を心がけましょう
- ・滑りやすい所には滑り止め対策をしましょう

3位 窒息(食物、薬等の包装等)

- ・細かく調理。ゆっくりよく噛みましょう
- ・お茶などの水分を取りながら食事をしましょう
- ・急に話しかけて、慌てさせないようにしましょう

2位 転落(階段、ベッド、脚立、椅子等)

- ・階段などには手すりを設置しましょう
- ・ベッドにも転落防止の柵をつけましょう
- ・脚立等を使う時は補助者に支えてもらいましょう

4位 ぶつかる(家具、人、柱、ドア等)

- ・慌てず、周りをよく見て行動しましょう
- ・通路などに物を置かないようにしましょう
- ・暗いところは十分な明るさを確保しましょう

消化器内科の紹介

消化器内科は、食道・胃・小腸・大腸などの消化管と、肝臓・膵臓・胆のうなどの実質臓器を含めた、腹部の多岐にわたる臓器を診療します。吐血・下血・急激な腹痛などの緊急性を要する疾患から、便秘症、肝硬変、慢性膵炎などの慢性の疾患まで、幅広い疾患を扱うだけではなく、早期癌の内視鏡的切除や肝癌に対するラジオ波焼灼術など、高度医療にも積極的に取り組んでいます。今回は、代表的な内視鏡的治療、および、ヘリコバクター・ピロリ菌に対する当院での取り組みについてお話しします。

●早期胃癌・大腸癌に対する治療

以前より、病変部にスネアと呼ばれる金属の輪を掛け、高周波電流を流して病変を切り取る内視鏡的粘膜切除術を施行していました。切除できる大きさに限界がありましたが、内視鏡的粘膜下層剥離術と言う、それまで外科手術となっていた大型の病変、潰瘍を伴う病変などを内視鏡的に切除する方法が確立されました。本院でも、早期に発見された胃癌・大腸癌などに対し、適応を十分に検討した上で、外科的切除よりも負担の少ない内視鏡的切除を行っています。

●閉塞性黄疸に対する治療

閉塞性黄疸は、総胆管結石、胆管腫瘍、膵腫瘍などにより、肝臓が産生する胆汁の通り道である胆管が閉塞することにより発症します。放置すれば胆管炎や敗血症など、命に係わる状態になりやすく、早期の対応が必要です。結石に関しては内視鏡的採石術、腫瘍に対しては内視鏡的胆管ステント留置術などを行っています。

●ヘリコバクター・ピロリ菌除菌治療

ヘリコバクター・ピロリ菌は胃に定住しており、世界保健機関により胃の発癌物質として認定されています。内服で除菌できる方法が確立しており、99%の方が除菌できます。

除菌治療や生活環境の改善が進み、若年者のピロリ菌感染率は低下していますが、感染後早期の除菌が有効と言われています。本院では、2018年から加西市と共同で、市内の中学生のピロリ菌検査を施行し、陽性の方には高校生になってから除菌治療を受けていただく事業を開始しました。兵庫県内でも2番目の取り組みであり、将来の「胃癌死亡ゼロ」の達成を目指しています。

成人の方でも、胃カメラを受けていただき、ピロリ菌がいた場合は除菌することによって、胃癌の発生を抑えることができます。

●内視鏡検査に伴う苦痛の軽減

癌の早期発見は、症状のない段階で積極的に検査を受けてもらうことで可能となります。「胃カメラはつらい」「大腸カメラは痛い」と聞いているなど、内視鏡検査を躊躇される方も多くいらっしゃると思いますが、鎮静剤（眠り薬）や鎮痛剤（痛み止め）の注射や経鼻内視鏡の導入など、様々な工夫で苦痛の軽減を図っています。

お腹の病気は、急性・慢性に関わらず、生活の質に悪影響を与えます。患者さん一人ひとりに合った治療を、ご希望を伺いながらご提案・ご提示させていただきます。いつでも気兼ねなくご相談ください。

（消化器内科 稲垣 智子）

お詫びと訂正

広報かさい8月号11ページ「高齢者安全運転支援事業補助金」の内容に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

①申込先 ・電話（誤）42-8723 （正）42-8751 ・FAX（誤）42-7521 （正）43-1800

②メール（誤）kenko@city.kasai.lg.jp （正）bosai@city.kasai.lg.jp

③補助金対象者②（誤）兵庫県が実施する高齢運転者事故防止対策事業補助金の交付決定を受けた者
（正）自動車を運転できる有効期限内の運転免許証を保有する者

●問合せ／秘書課 ☎42-8701